

## 機械工学委員会生産科学分科会（第26期・第5回）議事要旨

日 時：令和7年2月5日（水）18:00～20:00

会 場：オンライン

出席者：

足立幸志、梅田靖、厨川常元、佐々木直哉、鈴木宏正、須藤雅子

塚田竹美、廣野陽子、藤田喜久雄、松田三知子、松原厚、光石衛（12名、五十音順、敬称略）

欠席者：

伊藤宏幸、佐田豊（2名、五十音順、敬称略）

### 議題

- （1）話題提供「サステナブルな産業構造に向けて—環境保全を新たな産業発展の契機とするには？」  
京都大学大学院経済学研究科教授 諸富徹先生
- （2）シンポジウム・意思の表出組み立てについて
- （3）その他
  - （3-1）議事要旨の承認に関する委員長一任について
  - （3-2）今後の会議日程等その他

### 議事

- （1）話題提供「サステナブルな産業構造に向けて—環境保全を新たな産業発展の契機とするには？」  
京都大学大学院経済学研究科教授 諸富徹先生

下記の流れで話題提供を行っていただいた。

- ・どのように脱炭素化に向かうのか？
- ・文献・データに見る現状
- ・トランプ政権はIRAをどう扱うか
- ・米国を襲う気候脅威の現実
- ・21世紀は「デカップリング経済」へ
- ・脱炭素化に向けた政策手段
- ・GX推進法とは何か
- ・「自然資本思考／志向の経済・産業」の重要性
- ・「製造業のサービス産業化」と日本の製造業の将来展望

#### 【議論】

サービス化された製造業、サーキュラーエコミー・DXのあたりがこの分科会と中心的に重なる話題提供であった。ESG経営、とくに人的資本や無形の価値に投資をしてサービス化された製造業を作っていかなければならないというメッセージは非常に重要であり、各委員の普段の調査内容や経験から、情報の共有と活発な議論が行われた。

(2) シンポジウム・意思の表出組み立てについて

令和7年9月末までに提言を公表する場合、スケジュールを逆算すると

令和7年9月 幹事会が提言案を審議

7-9月 科学的助言等対応委員会が「提言案」を査読②

5-7月 分野別委員会が「提言案」を査読①

4月中 科学的助言等対応委員会が「提言の骨子案」に助言

3月中 分科会は、科学的助言等対応委員会に「提言の骨子案」を提出

2月中 科学的助言等対応委員会が「申出書」に助言

令和7年1月中 分科会は、関係する委員会や分科会・部と事前調整の上、科学的助言等対応委員会に検討課題を提出「申出書」

須藤副委員長から日程感の説明があり、梅田委員長から、梅田委員長、須藤副委員長、松原委員で作成したたたき台の紹介があった。たたき台に対し、各委員より質問、意見が多く交わされ、活発な議論が行われた。議論が進んでいるため、次回は日本学術会議の会議室を借りて議論することと決定した。

(3) その他

(3-1) 議事要旨の承認に関する委員長一任について

一任する。

(3-2) 今後の会議日程等その他

日学会議室を借りてハイブリッド開催を行う。別途日程調整する。

以上